

はしかわ市長の **だいすき!くさつ**



東京オリンピック・
パラリンピックで
草津市ゆかりの
選手が活躍

先月8日まで開催された東京オリンピックでは、過去最多の58個のメダルを獲得するなど、日本選手の活躍が光りました。本市にゆかりのある選手では、競泳・女子200m、400m個人メドレーで、大橋悠依選手が、競泳女子の選手として初めて金メダルを獲得されました。この快挙に市からも草津市民スポーツ大賞「最高栄誉賞」を贈呈します。大橋選手には、令和6年に完成予定の(仮称)草津市立プールで、勇姿を見せていただくことを期待しています。また、バドミントン男子シングルの常山幹太選手も力強いショットで見事に決勝トーナメントに出場され、メダルを獲得した相手に善戦されました。中国選手も2種目に出場され、ライフル・女子10mエアライフルでは日本選手で最高位の32位、ライフル・混合10mエアライフル団体が13位に健闘されました。

先月24日から開催され、今月5日まで熱戦が続くパラリンピックでは、トライアスロンに出場される、本市在住の宇田秀生選手に、先月12日、ご家族とともに市役所を敬訪問いただき、競技にかけ熱い想いと全力を尽くす力強い言葉をいただきました。

先月8日まで開催された東京オリンピックでは、過去最多の58個のメダルを獲得するなど、日本選手の活躍が光りました。本市にゆかりのある選手では、競泳・女子200m、400m個人メドレーで、大橋悠依選手が、競泳女子の選手として初めて金メダルを獲得されました。この快挙に市からも草津市民スポーツ大賞「最高栄誉賞」を贈呈します。大橋選手には、令和6年に完成予定の(仮称)草津市立プールで、勇姿を見せていただくことを期待しています。また、バドミントン男子シングルの常山幹太選手も力強いショットで見事に決勝トーナメントに出場され、メダルを獲得した相手に善戦されました。中国選手も2種目に出場され、ライフル・女子10mエアライフルでは日本選手で最高位の32位、ライフル・混合10mエアライフル団体が13位に健闘されました。

先月8日まで開催された東京オリンピックでは、過去最多の58個のメダルを獲得するなど、日本選手の活躍が光りました。本市にゆかりのある選手では、競泳・女子200m、400m個人メドレーで、大橋悠依選手が、競泳女子の選手として初めて金メダルを獲得されました。この快挙に市からも草津市民スポーツ大賞「最高栄誉賞」を贈呈します。大橋選手には、令和6年に完成予定の(仮称)草津市立プールで、勇姿を見せていただくことを期待しています。また、バドミントン男子シングルの常山幹太選手も力強いショットで見事に決勝トーナメントに出場され、メダルを獲得した相手に善戦されました。中国選手も2種目に出場され、ライフル・女子10mエアライフルでは日本選手で最高位の32位、ライフル・混合10mエアライフル団体が13位に健闘されました。

広がれ!はっぴー・ぼうさい



第6回

問 危機管理課(1階)
☎561-2325、☎561-6852

草津の防災力、どんどん高めていきましょう

関西大学 社会安全学部 近藤ゼミ

えふえむ草津でお届けしている防災の番組シリーズ「Happy BOUSAI」では、豪雨時の避難行動で、「余裕避難」というキーワードを使ってお伝えしています。ポイントは、全部で4つあります。

まず1つ目は、「早期避難をすること」です。例えば夜になってから慌てて避難しようとする、かえって危険を呼び寄せてしまうことになりかねません。落ち着いて早めの避難をするためには、常に心の余裕をもって構えることが大切です。

2つ目は、「避難先に着いてからも、心の余裕を持っておくこと」です。例えば、せっかく避難したのに、「晩御飯の準備があるので私は帰宅します」と言ってもと来た道を戻ってしまう人を見かけたことがあります。豪雨災害や土砂災害は、「時間差」で襲ってくることもあります。上流で降った雨水が下流で増水・氾濫したケースでは、すでに下流では雨がやんでいたのに油断していた…、なんてことがよくあります。

3つ目は、「警戒が解かれた際も心の余裕を持っておくこと」です。例えば特別警報や避難指示が解除されたとしても、自分が居る場所の周辺が、すぐに安全な状態に切り替わるとは限りませんので、一晩は避難先で過ごすなど、おおらかに構えたいものです。

最後の4つ目は、「警報などが空振りだったとしても、余裕を持って受け止めること」です。何もなかったのであれば、互いの無事を喜びましょう。最近では、「空振り」とは言わずに「素振り」と呼んで、避難訓練の良い機会だったと捉える動きもあります。

社会全体でこうした身構えを実践すれば、互いに手を差し伸べ合い、助け合う心の余裕も生まれやすくなります。ぜひ皆さんも、「余裕避難」の実現をめざしていきましょう!

Happy BOUSAI ラジオえふえむ草津 (FM78.5MHz)
第1・3火曜日12:00~



問 人権センター(大路二、キラリエ草津内)
☎563-1177、☎563-7070

差別のない明るいまちに

コラム
COLUMN

「誰」が、「何」を学ぶことが解決につながるの? ~草津市部落解放青年集会の学びから~

「私は今まで部落差別に合ってたと思っていた。しかし、地域の方から話を聞いたり、メンバーと話し合いをしたりしていく中で、出合ってたのだと気づきました。」
これは、草津市部落解放青年集会の実行委員のメッセージです。自身が部落問題から学び、部落差別への憤りや差別をなくしたいという思いを参加者に投げかけています。

「部落差別ってまだあるのですか?」「同和教育をするから部落差別がなくなるという誤った声はまだまだあります。青年集会での学びの様子から、差別をなくす一歩が見えてくるのではないのでしょうか。」
9月は滋賀県同和問題啓発強調月間です。同和問題の解決が「国民的課題」であり「国の責務」であると明言した「同和对策審議会答申」から50年以上経ちましたが、今でも就職や

の現実に気付かなかったり、自分の結び付きが感じられなかったりすることがあります。そこで、研修では必ず、結婚差別やネット上で起こる差別の不合理さ、差別への不安や怒り、悔しさなど、今ある部落差別の現実を取り上げます。そして、今までの自分を振り返り、差別を「わたし」はどう感じ、どうしていきたいのかなど、差別について深く考えていきます。そのような学びを積み重ねること、差別が「わたし」の問題であるという共通の認識が生まれ、そのことを土台に発表の内容へつなげていきます。

結婚での差別があり、基本的人権を侵害されているという事実があります。
最後に、先ほどの「メッセージ」の続きを紹介します。
「自分自身の在り方を問うこと、思いを語り合うこと、そして、それを今だけで終わらせずに続けていくこと。これらのことを実践していきます。」
この実行委員の言葉をとおして、差別を温存している「わたしたちの社会のありよう」や「差別をなくすわたしの生き方」を学ぶことが、部落問題の解決につながることを改めて考えたいです。



第33回 いのち・愛・人権のつどい

問 人権センター(大路二、キラリエ草津内)
☎563-1177、☎563-7070、✉jinkence@city.kusatsu.lg.jp

テーマ: ~命を支えるということ~
「がんばらない」けど「あきらめない」
講師: 諏訪中央病院名誉院長 鎌田實さん
今年はオンラインセミナーで開催します。
☎ 9月23日(木) 13:30~
☑ 市内に在住か通勤・通学している人

他 • 申込者には9月21日(火)までにURLを送付
• インターネット環境が無い場合は、ご相談ください
申 9月13日(月)まで(必着)に、住所・氏名・電話番号・Eメールアドレス(任意)を書いて、直接か電話、ファクス、Eメールで